

進学や就職などで学校の住所を書くことは、今で少なくなりましたが、みなさんは足柄高校の住所をご存知ですよ。南足柄市怒田 860 番地。怒田は「ぬだ」と読みますが、「ぬた」と呼ぶ人も多いですね。学校の正門を出て左手に坂を上ってしばらくいくと、昔からある怒田の集落があります。

怒田はそのまま直訳すると「怒っている田んぼ」。だいたい「怒」なんて漢字を地名に使うのは珍しいようにも思えますが、わりと頻りにみられる地名です。中井町にも(古)怒田というところがありますし、横須賀市には昔の城跡で怒田城址というのが久里浜駅の近くにあります。

南足柄の怒田はかつては「奴田」と記されおり、語源的には「沼田」から変化したものと考えられます。全国的には怒田は山間部の棚田(急斜面に段々につくられた田)のあるところの地名であり、急斜面に水を溜めた田は沼地状をなることが多く、また急斜面ゆえに崩れることも多かったことから、「怒れる田んぼ」の意味でそう呼ばれるようになった場所もあります。

さて、学校からバス通りを松田に向けて少し行くと、壺下(まました)という地名のところがありませんが、壺とは「がけ」とか「急傾斜地」の意味ですので、足柄高校や足柄台中学校のある台地のがけの下ということで、壺下となったようです。

また、足柄高校前のバス停のところを洞川(ほらがわ)が流れていますが、崖などから水が湧いて川になる場所が洞窟のようになっていると、その川に洞川という名前が付けられることがあります。全国的には石灰岩地形の鐘乳洞を通して流れ出る川につけられている例もあります。(奈良県天川村洞川*この場所は「どろかわ」と呼んでいます。)

いずれにしろ、崖から水が流れ出たり、沼ができたりと、足柄高校のある丘陵地はいろいろ変化に富む場所のようです。大地震が来たら崩れるのではないかと心配する人もいますが、酒匂川の治水が安定する以前は、平野にはほとんど集落がなく、丘陵地の上にみな住んでいたのですから、あまり心配することはないと思います。しかし「備えあれば憂いなし」。災害対策には不断の注意をはらっていきましょう。

最後に一言。みなさんの中には、学校帰りの交差点に出るまでの坂道を、自転車で猛スピードで「右側通行」している人がいます。加えて右側を「並列走行」している人もいます。坂を一生懸命自転車をこいで上がってきている人には、ものすごい「脅威(きょうい)」です。朝あなたがたが登校するときに、右側通行でたくさん自転車が一斉に下ってきたらどう感じるか、よく考えてみてください。

